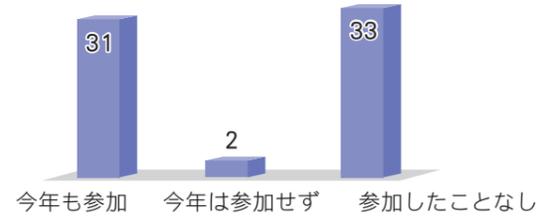


2-3 海中がれき処理作業への参加

組合員の回答者66人のうち、これまでがれき処理に参加したことがある方は33人で、参加したことがない方は33人でした。

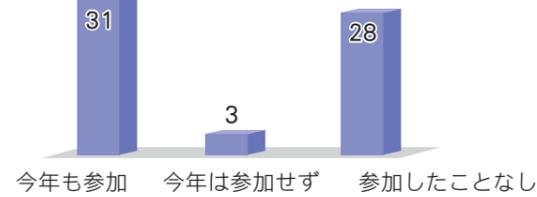
(図3) がれき処理作業への参加



2-4 モニタリング作業への参加

組合員の回答者66人のうち、これまでモニタリング作業に参加したことがある方は34人で、参加したことがない方は28人でした。(4人は無回答)

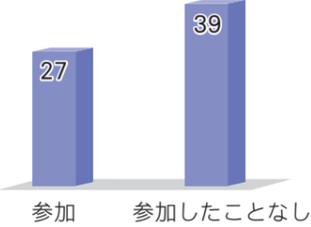
(図4) モニタリング作業への参加



2-5 試験操業への参加

組合員の回答者66人のうち、これまで試験操業に参加したことがある方は27人で、参加したことがない方は39人でした。

(図5) 試験操業への参加

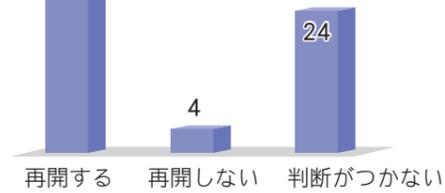


3 組合員の今後の意向

3-1 漁業再開の意向

今後の漁業再開の意向を聞いたところ、組合員の回答者66人のうち、再開すると答えた方が38人、再開しないと答えた方が4人、判断がつかないと答えた方が24人でした。再開すると決めている方と決めかねている方の割合は約6対4でした。

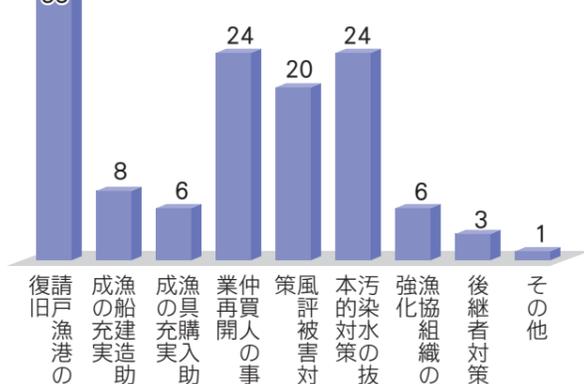
(図6) 漁業再開の意向



3-2 再開の必要条件

再開すると答えた38人に対し、そのための必要条件を聞いたところ、最も多かったのは「請戸漁港の復旧」で、次いで「汚染水漏洩の抜本的対策」と「仲買人の事業再開」、「風評被害への対策」の順でした。

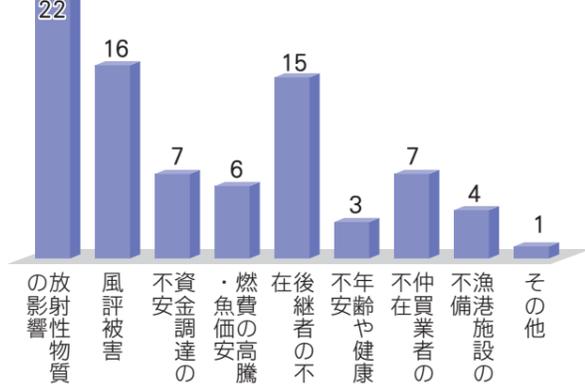
(図7) 漁業を再開する人にとっての必要条件 (複数回答)



3-3 漁業再開に判断がつかない理由

漁業の再開について現時点では判断できないと答えた24人に対し、その理由を聞いたところ、最も多かったのは「放射性物質の影響」で、次いで「風評被害」、「後継者の不在」の順でした。

(図8) 漁業再開に現時点で判断がつかない理由 (複数回答)



浪江町の新しい水産業デザイン実現化事業アンケート結果をお知らせします

「浪江町の新しい水産業デザイン実現化事業」では、浪江町漁業の復興や新たな水産業の発展を目指し、新しい水産業のデザインを作成する目的で、漁業者の方々にアンケート調査を実施しました。

アンケートは相馬双葉漁業協同組合請戸支所の組合員、組合員のご家族、仲買人の合計209人の方に送付し、124人の方から回答をいただきました。

町では今後、この調査結果を活用し、水産業デザインの検討を進めていきます。

1 組合員の震災前の状況

1-1 漁業種別従事者

震災前に従事していた主漁業種は、組合員の回答者66人のうち、船曳網が最も多く、次いで、固定式刺網、かごの順であり、請戸支所の漁業は非常に種類が豊富でした。

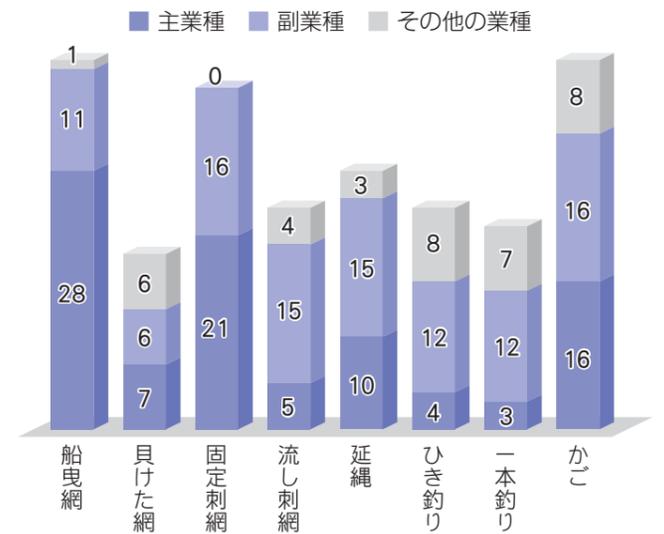
また、12人が漁業以外の兼業として、農業、遊漁船の経営を挙げていました。

1-2 所有漁船

組合員の回答者66人のうち、震災前に1隻の漁船を所有していたのは61人、2隻の漁船を所有していたのは3人でした。(2人は所有漁船なし)

漁船の規模は、総数67隻のうち1トン未満が2隻、1トン～4.9トンが39隻、5トン～7トンが26隻でした。

(図1) 漁業種別従事者



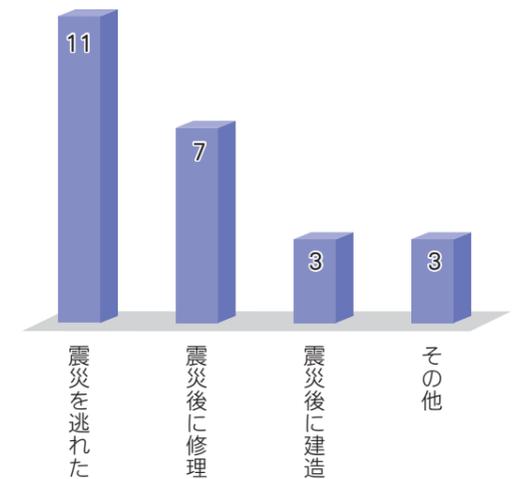
2 組合員の現在の状況

2-1 現在の漁船所有

組合員の回答者66人のうち、現在漁船を所有している漁業者は24人で、所有していない漁業者は39人でした。(3人は無回答)

現在所有する漁船の内訳は、図2のとおりです。その他の3隻のうち、2隻は「現在建造中」、1隻は「津波で流されたまま残っている」との回答でした。

(図2) 現在所有する漁船



2-2 漁船購入の予定

震災前に漁船を所有していたが現在は漁船を所有していない方39人に、今後の漁船購入の意向を聞いたところ、表1のとおりでした。

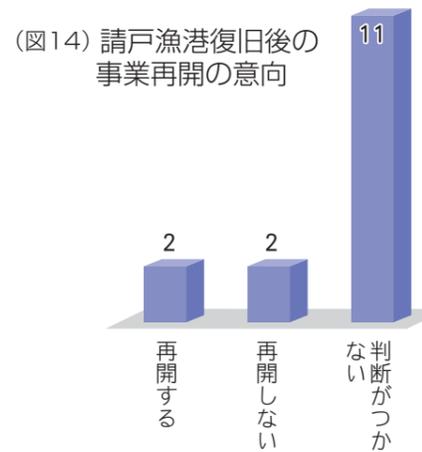
(表1) 今後の漁船購入の意向

漁船を建造する	漁船を建造しない	判断がつかない	回答者合計
12	6	21	39

5 仲買人の意向

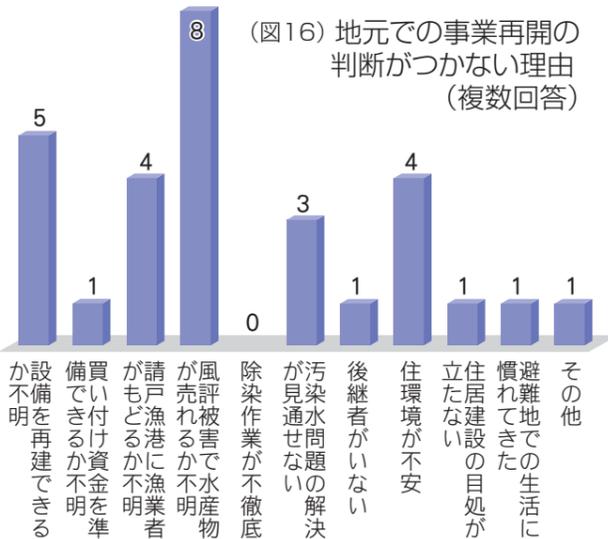
5-1 請戸漁港復旧後の事業再開の意向

仲買人の回答者16人のうち、地元に戻って事業を再開する意向のある方が2人、再開しない意向の方が2人、判断がつかない方が11人でした。(1人は無回答)多くの方が判断がつかない状態にあります。



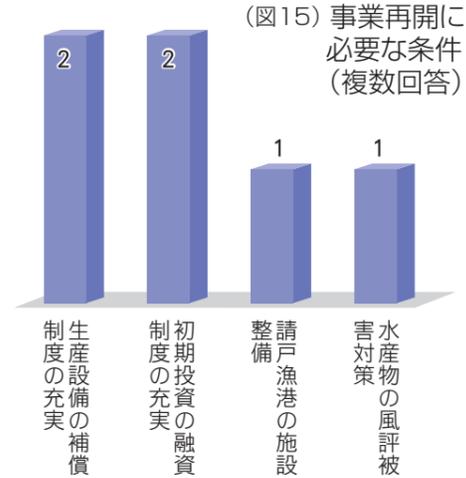
5-3 事業再開に判断がつかない理由

請戸漁港の復旧後、地元に戻って事業を再開することに対して、現時点では判断がつかない理由を聞いたところ、最も多かったのは「風評被害で水産物が売れるかどうかかわからない」で、次いで、「設備を再建できるかわからない」、「請戸漁港に漁業者が戻るかどうかかわからない」と「住環境が不安」の順でした。



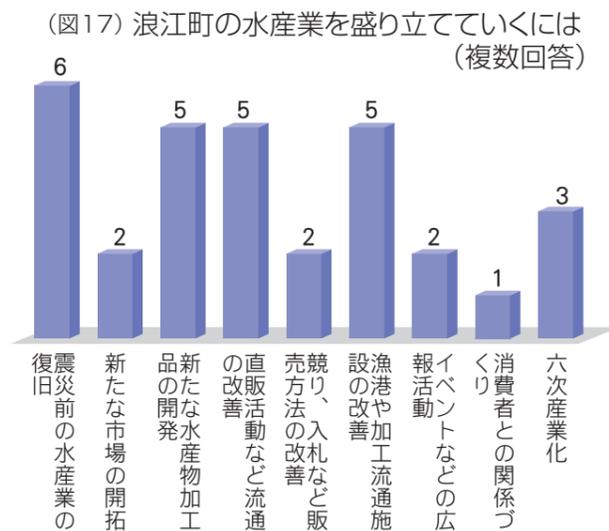
5-2 事業再開の条件

請戸漁港の復旧後、地元に戻って事業を再開するための条件を聞いたところ、多かったのは「生産設備の補償制度の充実」と「初期投資の融資制度の充実」でした。



5-4 浪江町の水産物を盛り立てていくには

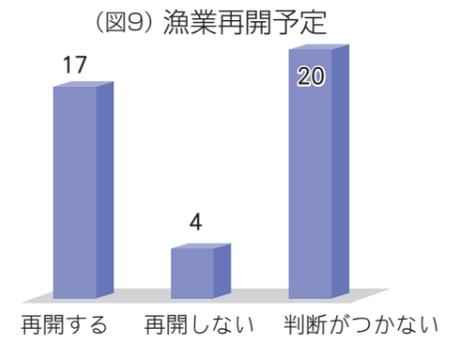
今後の浪江町の水産物を盛り立てていくために、どのようなことに取り組めばいいかを訪ねたところ、12人から回答があり、最も多かったのは「震災前の水産物の復旧」で、次いで、「直販など流通の改善」と「新たな水産物加工品の開発」と「漁港や加工流通施設の改善」でした。



4 家族の意向

4-1 漁業再開の意向

組合員家族の回答者42人のうち、再開する意向の方が17人、再開しない意向の方が4人、判断がつかない方が20人でした。(1人は無回答)



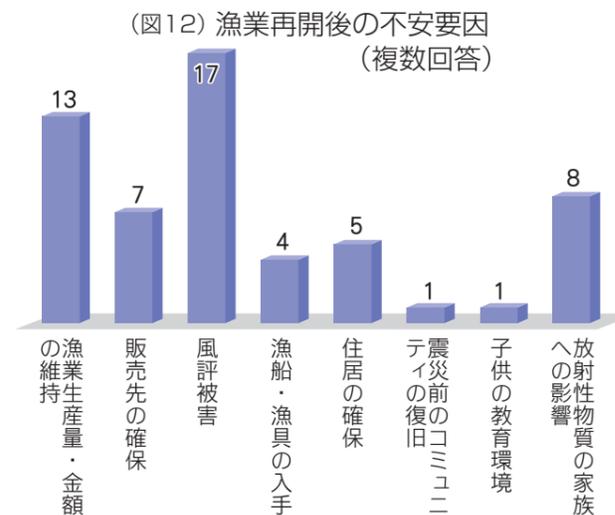
4-2 再開後の生活

漁業を再開した後の家族の生活について聞いたところ、一家揃って暮らすと答えた方が17人と最も多く、一方で6人の方が漁業者である夫と離れて暮らすと答えています。



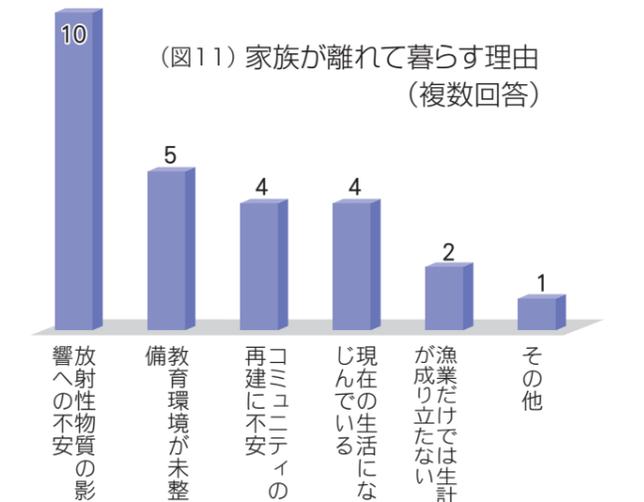
4-4 漁業再開後の不安要因

漁業再開後の不安要因を聞いたところ、最も多かったのは「風評被害による漁獲物販売の影響」で、次いで「漁業生産量や金額の維持」でした。



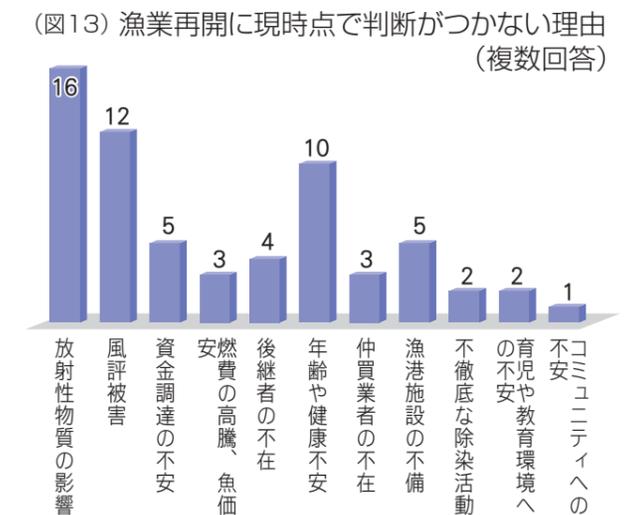
4-3 離れて暮らす理由

夫と離れて暮らす理由を聞いたところ、最も多かったのは「放射性物質の影響への不安」で、次いで「子供の学校など教育環境の未整備」でした。



4-5 漁業再開に判断がつかない理由

漁業再開に判断がつかない理由を聞いたところ、最も多かったのは「放射性物質の影響」で、次いで「風評被害」、「年齢や健康不安」の順でした。



問 「浪江町の新しい水産業デザイン実現化事業」委託先
(一般社団法人) マリノフォーラム21 TEL 03(6280)2793

問 産業・賠償対策課産業再生係 TEL 0243(62)0167